



広げよ 可能性の地図、
定めよ 羅針盤



真摯 勤勉 質実

山口県立小野田高等学校

校長通信（発行不定期）

平成31年4月10日 **第11号**



皆さん、こんにちは。校長の土井 浩です。

昨年度、私は本校に赴任してきました。そして、生徒の皆さんに校長として私が伝えたいことを、この「校長通信」の場を借りて発信してきました。

大変嬉しいことに、多くの生徒が目を通してきて、時には意見や質問をしてくれることもありました。本当に有難く思います。

そのため、本年度も引き続き『校長通信』を発行することにしました。発行は定期ではありませんが、君たちを見ていて思うこと、感じること、また学校や世の中の動きなどについても、メッセージを発していきたいと思っています。

せき しょう い だい
積 小 為 大

昔、全国の学校で最も多かった銅像。それは薪を背負い読書しながら歩く少年の像でした。二宮尊徳。江戸時代の農村の指導者です。そして、この言葉は尊徳が述べたとされる言葉です。

尊徳は、幼い頃は金次郎と呼ばれていました。14歳で父を、16歳で母を亡くした金次郎は、親戚の家に預けられました。金次郎は、そこで農作業を手伝います。

あるとき、彼は、田植えが終わった田を眺めていると、捨てられている苗の束を見つけました。金次郎はその束をもらいうけ、荒れ地を耕してその苗を植えました。そして、秋には少ないながらも米を収穫することができたのです。不要になった米の苗として、そのまま捨てられていけば、米として収穫はできません。そこに目をつけたのが、金次郎だったのです。このような小さな事柄を実践して、大きな収穫を得ることを「積小為大」というのです。

君たちは、コツコツと毎日続けていることがありますか。毎日続けるとどうということになるか、考えてみましょう。例えば、英語学習に不可欠な英単語の暗記。1日5個覚えれば、10日間で50個。1年間では1825個単語が覚えられます。1日10個覚えれば、なんと3650個もの単語が暗記できるのです。このような毎日の積み重ねが、受験勉強においても非常に大切なことがわかるでしょう。

そうです。小さなことの積み重ねが、大輪の花を咲かせるのです。始業式や入学式で君たちに紹介したイチロー選手もそうでした。もちろん彼には持って生まれた天性の素質があったと思われます。しかし、天分だけで日米のプロ野球界で活躍できるほど、プロの世界は甘くはありません。4367安打という偉業など絶対に不可能です。



二宮尊徳（金次郎）像



イチロー

「小さなことを重ねることが、とんでもないところへいくだけ1つの道だと思う。」

「今自分にできること。頑張ればできそうなこと。そういうことを積み重ねていかないと、遠くの目標は近づいてこない。」

「夢をつかむということは、一気ににはできません。小さなことを積み重ねることで、いつの日か、信じられないような力を出せるようになっていきます。」

「努力をせずに何かできるようになる人を『天才』と言うのなら、僕はそうじゃない。努力した結果、何かができるようになった人のことを『天才』と言うのなら、僕はそうだと思う。」

イチロー選手のこれらの言葉からも、日々のたゆまぬ練習の積み重ねや心身の厳しい鍛錬によって、彼が「不世出の天才野球選手」と言われる栄光をつかんでいったことがわかりますね。

大きな夢や志をもつことは大切です。しかし、それを実現するためには、毎日の地味な積み重ね、不断の努力が大切です。1日、1週間、1月で結果がでないからといって決してあきらめてはいけません。1年後、2年後、さらにはその後を見据えて、小さな努力を積み重ねていくことが大切なのです。

「**小を積んで大を為す**」。かけがえのない人生を力強くたくましく生きていくために、君たちには是非実行してほしいと思います。

挨拶を大切に！

昨年度本校に赴任して以来、毎朝私は、生徒昇降口のところで立哨をしています。登校してくる君たちに「おはよう」と声をかけます。

昨年度最初の頃は、君たちのなかには、声が小さく元気がない生徒が目立ちました。しかし、毎朝、挨拶を交わしているうちに、次第に声を出してくれるようになりました。また、私からではなく、君たちの方から「おはようございます」とあいさつをしてくれる者も多くなってきました。大変嬉しく思います。

挨拶は礼節の基本であり、相手や場に応じた挨拶を身に付けていれば、社会生活にも自信がもてます。対人関係もスムーズにいきます。挨拶は、「生きる力」の重要な要素であると言っても過言ではありません。

私がこれまで赴任した学校のなかでも、明るく大きな挨拶が響き渡る学校は、生き生きと活気のある学校でした。人間関係が良好で、友情の輪が広がっていた学校でした。挨拶には勉強も知識も必要ありません。**必要なのは、「挨拶をしよう」という心がけ一つだけなのです。**

是非、明るく大きな声で挨拶をしましょう。先生に対しても、また友人に対しても。そして、君たちの母校をもっともっと元気な学校にしてください！

